

## 吹田市総合教育会議

令和4年2月13日  
午後3時30分開会  
第一会議室（さんくす）

### 次 第

#### 1 報告案件

(1) いじめの状況と取組について

#### 2 協議案件

(1) 子育て・教育支援について

(2) 教育未来創生計画について

#### 【資料】

- 資料1 いじめの状況と取組
- 資料2 吹田の子供の状況
- 資料3 市内小中学校における支援学級在籍児童・生徒の推移
- 資料4 教育相談の件数及び種別（教育センター）
- 資料5 目標とする教育支援体制
- 資料6 スクールソーシャルワーカー（SSW）の対応例
- 資料7 教育未来創生計画（案）

## いじめの状況と取組

### 吹田市教育ビジョン（吹田市教育振興基本計画）

重点課題への位置づけ

重点課題1 「いじめのない学校」づくり

重点課題2 . . . . .

### すいたGRE・EN（グリーン）スクールプロジェクト

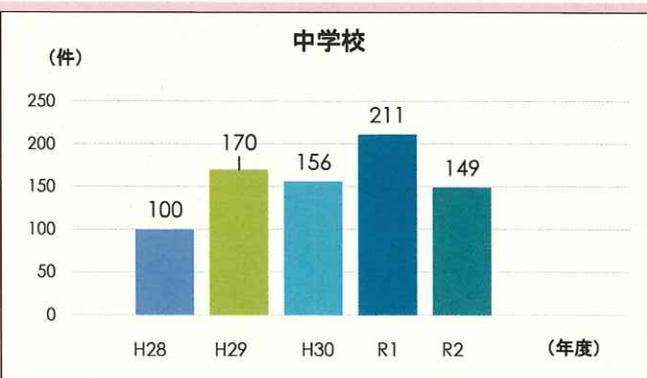
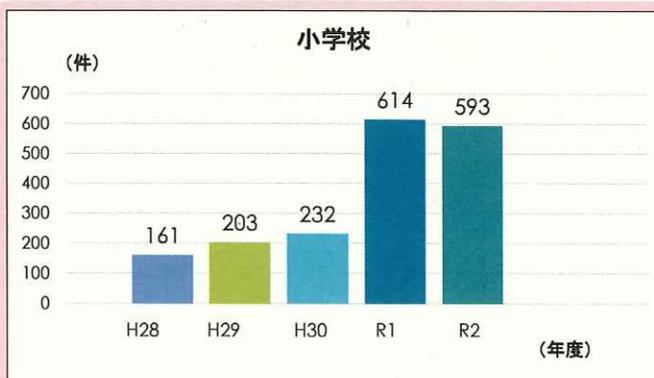
「G」good（良い）「RE」relation（関係・間柄）「EN」enjoyment（楽しみ・喜び）「学校」を子供たちが友達や先生、地域住民と良い関係を築き、楽しみや喜びを感じながら過ごせる場所へ！

- ◆早期発見・早期対応等に向けた体制の強化
- ◆教職員の意識向上、組織対応の徹底の促進
- ◆いじめの未然防止に向けた取組

- ◆SOSを発信できる新たな仕組みの構築・運用
- ◆取組等の進捗状況に対する第三者による検証

1

## 吹田市立小・中学校のいじめの認知件数の推移



令和元年度は、小学校で614件、中学校で211件といずれも前年度から大幅に増加した。校長指導連絡会をはじめさまざまな機会を通じ、法の定義に基づく丁寧ないじめ認知、組織的な対応を周知したことにより、教職員のいじめに対する意識が高まったものと捉えている。

令和2年度は、いずれも前年度から減少した。新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業やいじめ予防授業による児童・生徒のいじめへの認知の高まりなどが主な要因として考えられる。

GIGAスクール構想に基づく学習用端末が配備されるなか、当該端末やSNS等を使い、児童・生徒がネット社会に関わっていくことを踏まえ、いじめの未然防止の観点からも「デジタル・シティズンシップ教育」の推進に取り組んでいる。

# いじめの未然防止に向けた取組① (令和元年度・2年度)

いじめを未然に防止するために  
教職員の資質能力の向上  
児童生徒への教育

## 公益社団法人 子どもの発達科学研究所

脳科学、行動科学、疫学統計学に基づき、子育て、発達障害、いじめ予防、就労支援等に関し、科学的根拠に基づくプログラムの研究開発と提供を行う社会実装団体。

## いじめ予防推進事業

### 令和元年度

専門研修 (指導主事・専門職向け)

### 令和2年度

研修 (全教職員・リーダー教員)

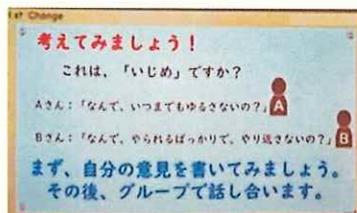
学校風土・いじめ調査  
(市内全小・中学校)

いじめ予防授業 (全児童・生徒)

公益社団法人子どもの発達科学研究所に委託し、事業を実施

3

# 令和元年度・2年度の成果と課題



全教職員を対象として研修を実施し、科学的知見をもとに学びました。  
全児童・生徒にワークブックを配布し、年間3時間の授業実践を行いました。

## 成果

- ①研修による教職員間の共通認識
- ②調査による学校風土の可視化  
調査結果に基づく取組の実施
- ③授業による児童生徒の行動の変容

## 課題

- ①いじめ加害児童・生徒への指導
- ②いじめ被害児童・生徒への支援
- ③いじめ対応への保護者の納得感

⇒科学的根拠に基づくプログラムがない

4

## いじめの未然防止に向けた取組②(令和3年度)

### 成果に基づき継続実施

### いじめ予防推進事業

令和3年度

- 研修(全教職員・リーダー教員)
- いじめ予防授業(全児童・生徒)

### 課題(令和元年度・2年度)

- いじめ加害児童・生徒への指導
  - いじめ被害児童・生徒への支援
  - いじめ対応への保護者の納得感
- ⇒科学的根拠に基づくプログラムがない

### 文部科学省委託事業

- いじめ加害への指導プログラムの開発
- いじめ被害への支援プログラムの開発

- 科学的根拠に基づく内容構成
- モデル地域による実践・検証
- 一人1台端末の活用による個別最適化

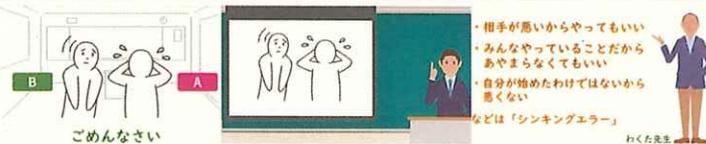
### いじめ予防授業の内容充実

プログラムをパッケージ化し全市へ発信  
吹田市をいじめ予防モデル地域へ

5

## 令和3年度の成果と課題

「いじめ・不登校等の未然防止に向けた  
**魅力ある学校づくり** 参加無料  
に関する調査研究」報告会  
～動画コンテンツを活用した児童・生徒のスキル獲得を目指して～



令和4年2月18日に、今年度の取組の成果について報告会を実施いたします。動画配信も行いますのでよろしければ、御参加下さい。



3

### 成果

- リーダー教員の育成(約150名)
- 取組の学校行事等への波及
- いじめ加害・被害児童生徒への対応等で活用できる動画コンテンツの制作

### 課題

- 困難事例等への対応の困難さ
- 思春期の子供への支援
- 保護者への支援

⇒令和4年度の取組へ

6

## SOSを発信できる新たな仕組みの構築・運用 いじめ防止相談ツール「マモレポ」

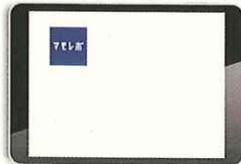
いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応につなげるため、GIGAスクール構想に基づく学習用端末を活用し、児童・生徒がヘルプサインを学校、市教育委員会に送信できるツールを構築し、運用。

### ポイント

相談できるツールを構築するだけではダメ！

相談に対して、見守りやアプローチができる体制の確保が必要！

● iPad・パソコンのトップ画面に「マモレポ」のアイコンがあるので、クリック



名前をおし  
名前を教えてください

あなたの名前

相談を誰の手で相談する

学校 先生

市教育委員会

（名前を渡す下に特設する）をチェックした場合は、あなたの相談を知らせたい場合があります。

何かおきましたか？

ぼしよ  
場所はどこですか？

学校

家庭

その他

### 課題・今後の取組

- ◆相談に対して、引き続き、適切・迅速に対応。
- ◆更に相談しやすい状況を構築するとともに、児童生徒への一層の周知促進。（相談件数：延べ50件程度）
- ◆システム上及び運用上の課題を検証し、改善。

## 取組等の進捗状況に対する第三者による検証

### いじめの重大事態調査委員会

- ◆調査等を要する複数の事案が生じた際の対応を可能とすること
- ◆学校や教育委員会の施策や取組の実施状況の検証を行うことなどを目的として、2つ目の調査主体を設置（令和3年度～）。

#### 第1小委員会

- (1) 弁護士
- (2) 医師
- (3) 臨床心理士
- (4) 社会福祉士
- (5) 学識経験者



いじめの重大事態（第2事案）の調査  
（令和元年11月～令和4年3月（予定））

#### 現状

いじめの重大事態（第1事案）の調査結果（提言）に基づく  
施策や取組の実施状況の検証  
（令和元年度～2年度の取組等）

新たな事案が生起し、調査が必要となった場合は調査実施

#### 第2小委員会

- (1) 弁護士
- (2) 医師
- (3) 臨床心理士
- (4) 社会福祉士
- (5) 学識経験者



吹田の子供の状況

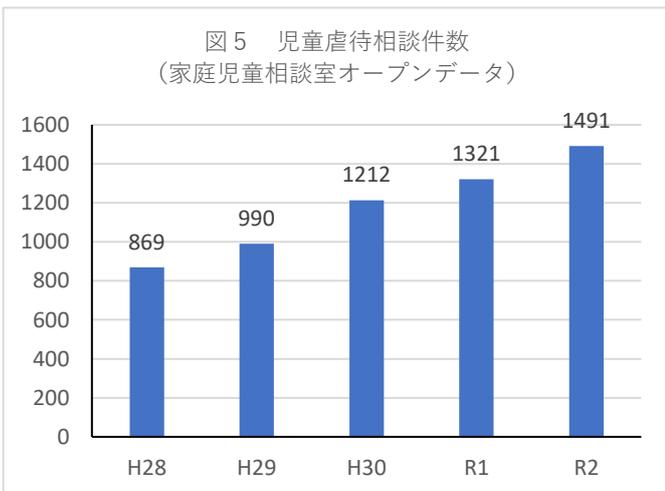
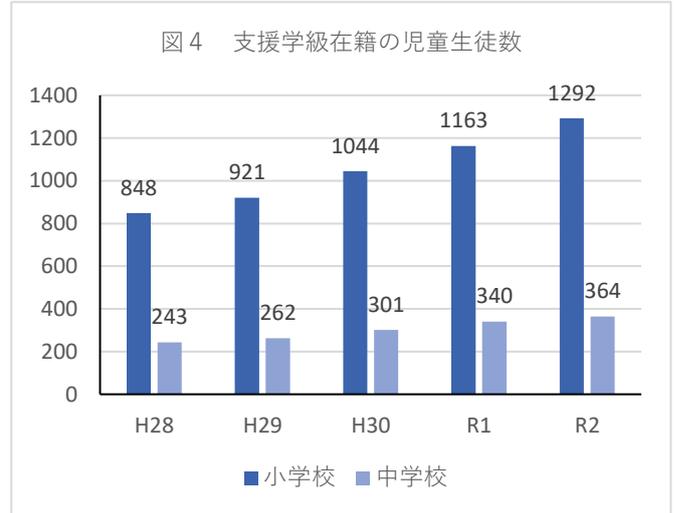
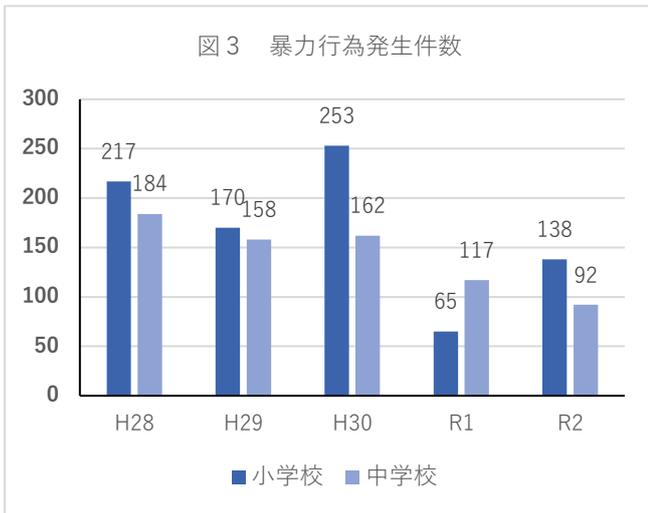
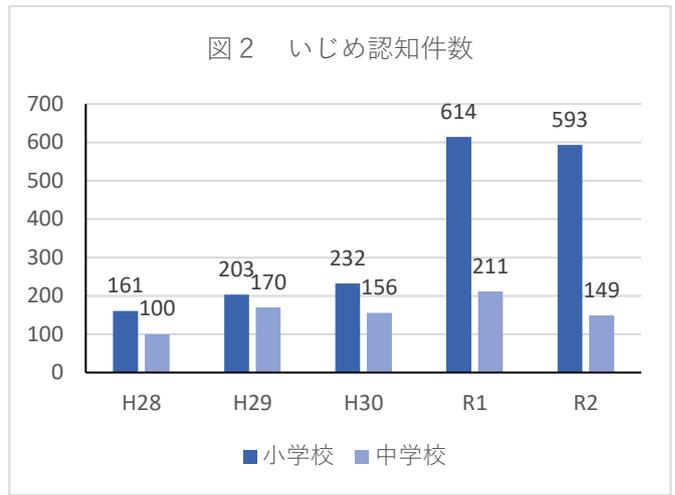
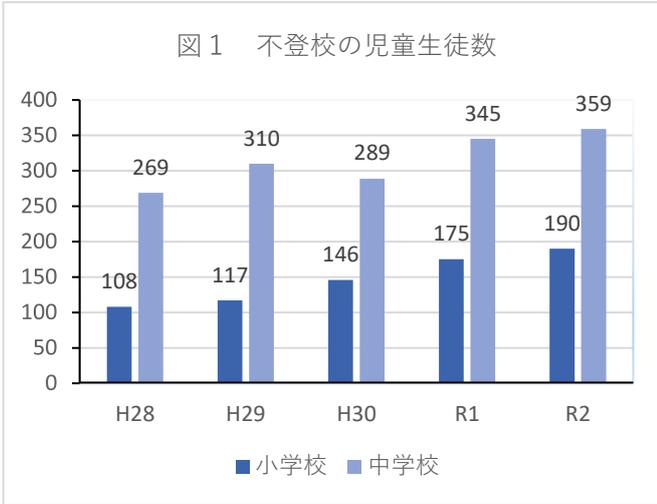


図1～図4は市立小・中学校の数値。図5は0歳～17歳の数値。

図6 18歳未満の世帯員のいる世帯数の推移

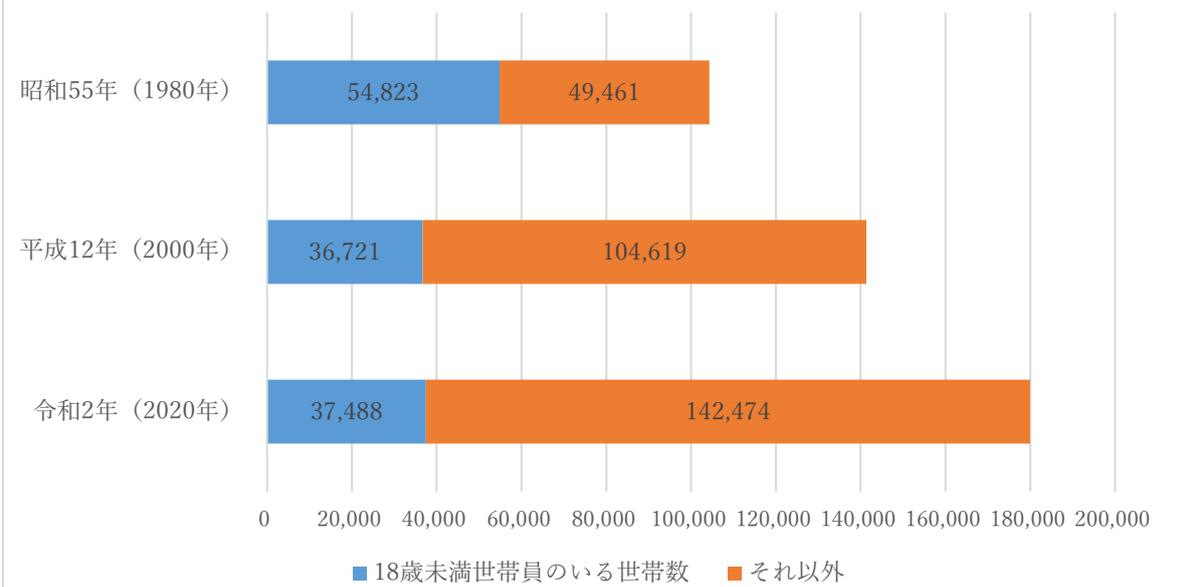


図7 18歳未満の世帯員のいる世帯の家族類型の推移

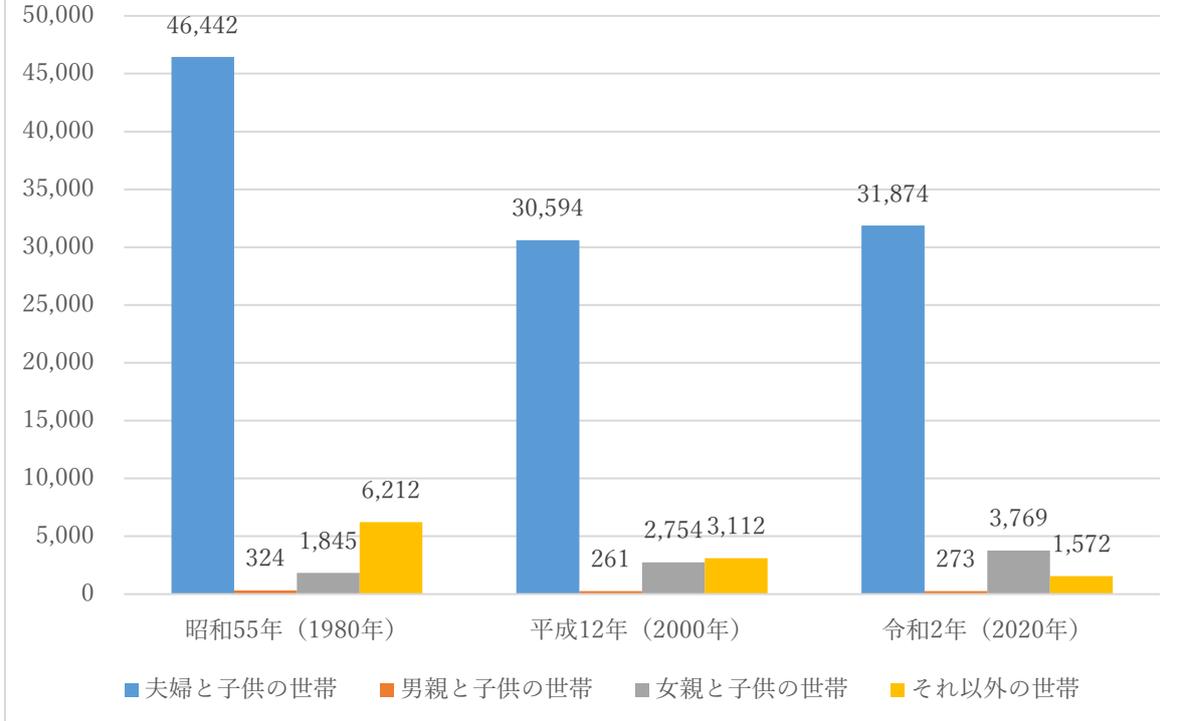
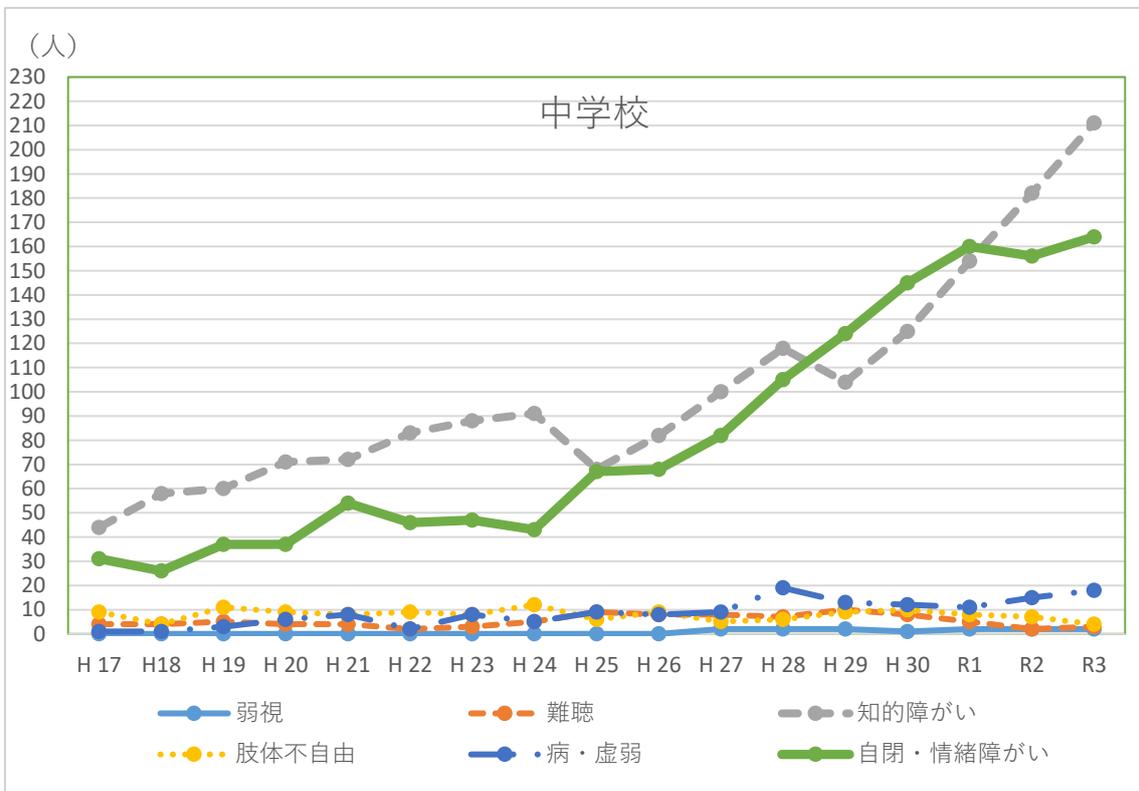
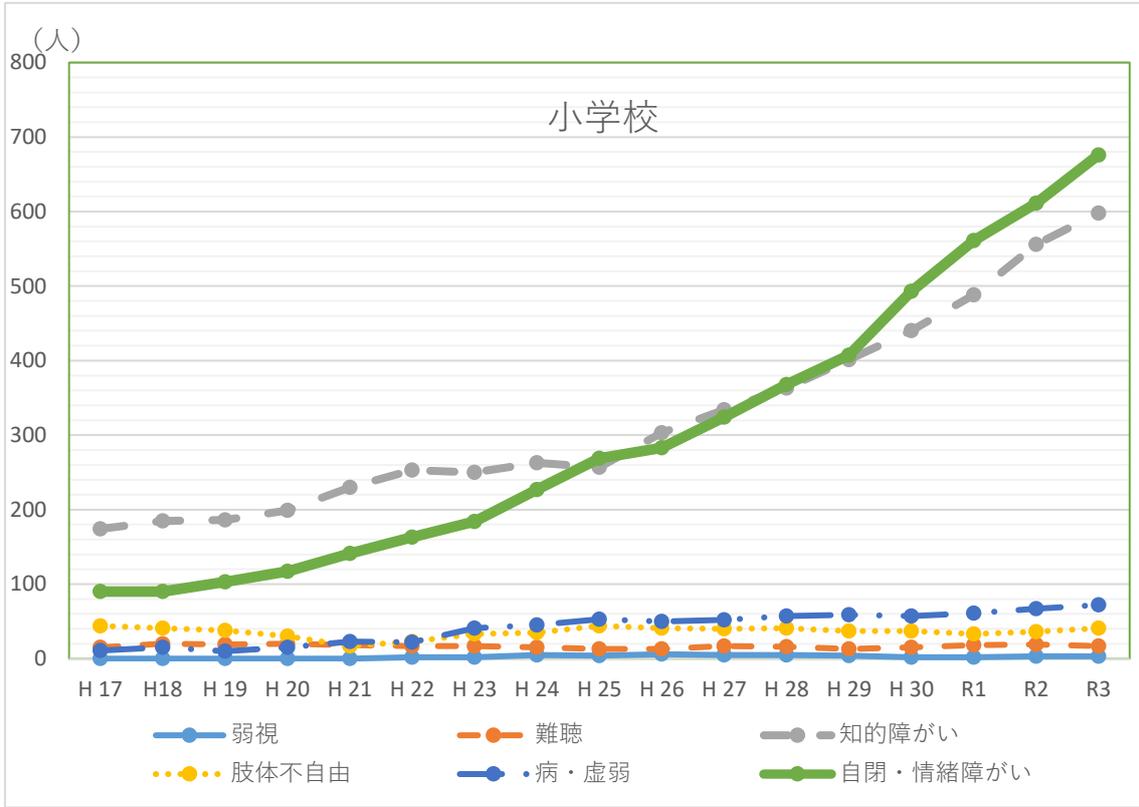


図6～図7は国勢調査の数値

市内小中学校における支援学級在籍児童・生徒の推移



## 教育相談の件数及び種別(教育センター)

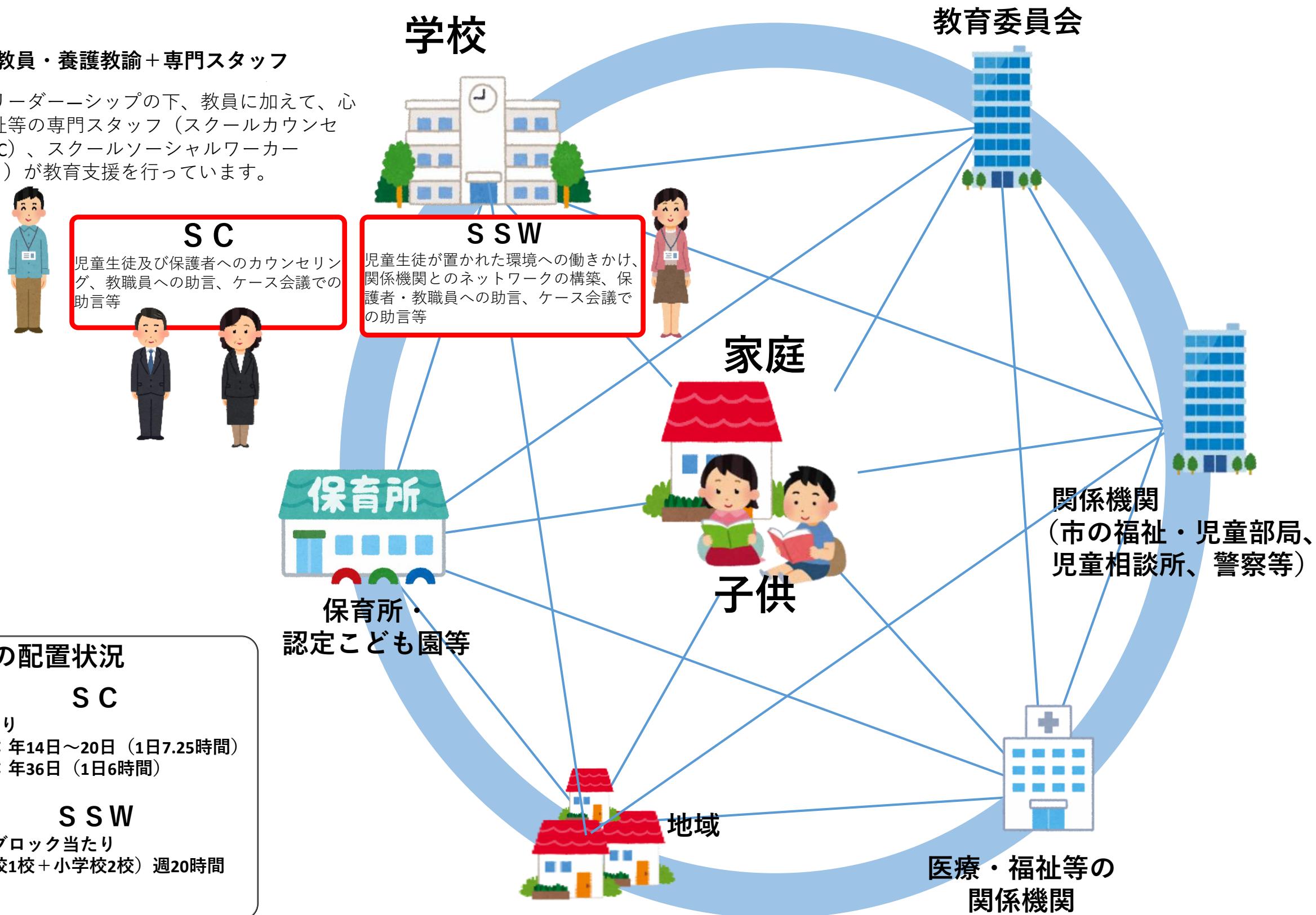
(単位:人)

	平成30年度 (2018年度)						令和元年度 (2019年度)						令和2年度 (2020年度)					
	来所相談	電話相談	小学校に おける相談	中学校に おける相談	計	割合	来所相談	電話相談	小学校に おける相談	中学校に おける相談	計	割合	来所相談	電話相談	小学校に おける相談	中学校に おける相談	計	割合
不登校	1,167	27	604	4,699	6,497	40%	1,361	43	736	4,170	6,310	39%	1,689	34	841	3,762	6,326	37%
いじめ問題	28	33	18	89	168	1%	34	18	51	65	168	1%	9	26	26	76	137	1%
友人関係	20	16	180	1,004	1,220	8%	58	9	114	1,455	1,636	10%	30	10	117	1,005	1,162	7%
暴力行為	17	0	19	23	59	0%	14	1	14	70	99	1%	57	3	11	81	152	1%
非行・不良行為	79	1	9	260	349	2%	41	4	24	495	564	3%	24	2	57	243	326	2%
心や身体に関すること (心身の健康・保健)	903	46	399	1,016	2,364	14%	844	65	462	1,020	2,391	15%	971	58	566	1,750	3,345	20%
発達障がい等	997	20	1,186	1,144	3,347	20%	864	23	1,135	1,162	3,184	20%	744	11	933	1,246	2,934	17%
家庭の問題 (家庭の環境)	25	5	55	577	662	4%	28	4	53	457	542	3%	38	1	18	712	769	4%
教職員との関係	1	19	14	105	139	1%	10	26	16	79	131	1%	1	26	74	164	265	1%
学習・進路	118	12	161	163	454	3%	70	4	133	73	280	2%	163	23	149	164	499	3%
貧困の問題				152	152	1%				1	1	0%				19	19	0%
虐待	11	1	8	467	487	3%	0	2	56	488	546	3%	6	0	77	791	874	5%
その他	0	43	11	451	505	3%	0	44	2	300	346	2%	1	39	25	219	284	2%
合計	3,366	223	2,664	10,150	16,403	100%	3,324	243	2,796	9,835	16,198	100%	3,733	233	2,894	10,232	17,092	100%

# 目標とする教育支援体制

## 校長・教員・養護教諭+専門スタッフ

校長のリーダーシップの下、教員に加えて、心理・福祉等の専門スタッフ（スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW））が教育支援を行っています。



### 現在の配置状況

#### SC

1校当たり  
小学校：年14日～20日（1日7.25時間）  
中学校：年36日（1日6時間）

#### SSW

中学校ブロック当たり  
（中学校1校+小学校2校）週20時間

スクールソーシャルワーカー（SSW）の対応例

資料6

◇◇ 小学校		種別 (左:主 右:副)													直接支援				ケース会議等				備考	支援状況															
No.	名前	学年	虐待	家庭	いじめ	不登校	非行	対人	行動	発達	保護者	学級	精神	その他	子ども	教員	保護者	校内	校内	連携	保護者	子ども	支援の説明	解決	支援改	支援中	その他												
1	a					1		1										1					不登校			1													
2	b				1			1		1	1	1			2	14	4	1	2				不登校 学校不信		1														
3	c				1					1						3		1	1		1		不登校 発達		1														
4	d				1								1		1	9	4	1	1		3		不登校 発達		1														
5	e			1					1	1						1		1	1				発達 問題行動		1														
6	f				1			1										1					不登校			1													
7	g				1							1	1		3	10	3	2	2		5		不登校 学校不信		1														
8	h			1		1				1	1					13	3		6	5	5				1														
9	i									1	1				4	2									1														
10	j									1	1				3	2										1													
11	k				1						1		1			5	1				1				1														
12	l					1				1	1					4	1		1		1				1														
13	m			1					1		1	1	1	1	3	13			5						1														
14	n								1	1	1				3	2	2	2	1		1		母子分離不安	1															
15	o				1				1	1	1				2	5	2		1		1				1														
16	p				1			1		1						1									1														
17	q			1								1				3			2							1													
18	r									1	1					1		1								1													
19	s								1		1					4			1		2				1														
20	t							1		1	1					2			1		1				1														
21																																							
22																																							
23																																							
24																																							
25																																							
26																																							
27																																							
28																																							
29																																							
30																																							
合計		0	0	0	0	3	1	1	8	2	0	0	0	0	5	1	4	9	3	1	11	0	4	0	4	0	1	21	94	20	11	25	5	21	0	1	14	5	0

## 1 策定趣旨

現代の子供たちは、技術革新やグローバル化が日々進展し、社会の構造や仕組みが急激に変化する時代を生きています。台風やゲリラ豪雨等の自然災害など、これまで経験したことがない事態が起こる予測困難な時代でもあります。

こうした社会の変化に対応できる力を育むため、教育も変化していく必要がありますが、学校に求められる役割が肥大化する中、脆弱な組織体制である学校現場は十分に対応する余裕がありません。

そのような中、新型コロナウイルスを背景に、GIGA スクール構想の一人一台端末が前倒しで実現し、35人学級実現に向けた法改正が行われるなど、今、学校教育が大きく変わろうとしています。

本計画は、教育の転換期をむかえた今、吹田の子供たちに個別最適化された質の高い教育を提供するための道筋を明らかにし、多額の費用を要する等実施に協議・調整を要する事業について、計画的に実行していくため策定するものです。

## 2 計画の位置づけ

「第2期教育振興基本計画 吹田市教育ビジョン」を上位計画とし、同計画策定後（令和2年度（2020年度）以降）の状況を踏まえた実行計画です。

## 3 計画期間

令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間

## 4 学校と学校を取り巻く状況

**社会** 新時代にふさわしい教育の要請

### 学校

- ・子供が有する課題の複雑化、困難化
- ・教育支援を必要とする子供の増加
- ・ICT教育等新たな分野の授業研究
- ・コロナウイルスへの対応

- ・組織体制の構造的な脆弱性
- ・経験年数の浅い教職員の増加
- ・教員採用倍率の低下、教員不足
- ・教員の多忙化、長時間勤務

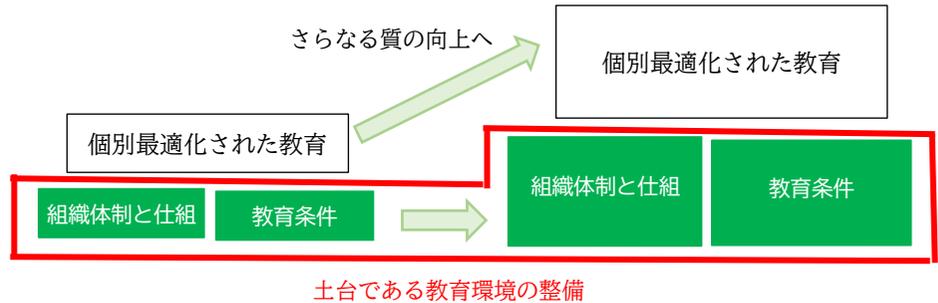
**家庭** 家庭の教育力に格差 **地域** 地域による教育の難しさ

## 5 目指すゴール

吹田のすべての子供たちに、個別最適化された質の高い教育を提供します

## 6 達成の考え方

質の高い教育を支える「組織体制と仕組」、「教育条件」を整えることで、教育の質をさらに向上させます。



## 7 施策の方向性

※施策案は、実施計画・予算査定を経て決定します。

### 方向性1 持続可能な組織体制と仕組の構築

#### 柱

- 1 熱意と能力のある教職員の確保
- 2 教職員の学びと育ちを支援する体制の整備
- 3 教職員が本来業務に集中できる働きやすい環境の整備  
児童生徒へのきめ細やかな対応を可能とする組織体制の構築
- 4 教職員がやりがいを感じる学校

#### 施策例

- ▶ 1 教職員の人事権移譲
- ▶ 2 質の高い研修、独自の育成システム
- ▶ 3 教職員の働き方改革（専門スタッフの活用、教職員配置の工夫、学校給食費の公会計化・学校徴収金の一括徴収）
- ▶ 4 学校・地域の実態に基づいた特色ある学校運営

### 方向性2 教育条件の整備

#### 柱

- 1 安心・安全な学習環境の整備
- 2 学習に必要な設備の整備
- 3 児童生徒の平等な教育機会

#### 施策例

- ▶ 1 校舎等の大規模改造、空調整備（体育館）
- ▶ 2 ICT環境、学校給食等整備
- ▶ 3 学校規模適正化  
教育的ニーズに基づいた支援教育・通級指導の充実

## 方向性1 持続可能な組織体制と仕組の構築

柱	施策等	目標（実施済）年	
1 熱意と能力のある教職員の確保	教職員の人事権移譲		
2 教職員の学びと育ちを支援する体制の整備	質の高い研修、独自の育成システムの構築	令和2年(2020年)4月	実施中
	教職員研修の核となる新教育センター設置	令和6年度(2024年度)	
3 教職員が本来業務に集中できる働きやすい環境の整備  児童生徒へのきめ細やかな対応を可能とする組織体制の構築	学校給食費の公会計化・学校徴収金の一括徴収	令和5年(2023年)4月	
	学校教育情報通信ネットワーク再構築	令和5年(2023年)4月	
	【配置済みの専門スタッフ】 スクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC） 学校問題解決支援員、いじめ対応支援員、教育相談員、いじめ対応専任相談員 スターター、スクールロイヤー、英語指導助手、ICT支援員、読書活動支援者 介助員、発達相談員、学校サポートスタッフ、部活動外部指導者 不登校児童生徒支援員		実施済
4 教職員がやりがいを感じる学校	スクールプロジェクト		実施中
	質の高い研修、独自の育成システムの構築【再掲】	令和2年(2020年)4月	実施中
	学校給食費の公会計化・学校徴収金の一括徴収【再掲】	令和5年(2023年)4月	
	学校教育情報通信ネットワーク再構築【再掲】	令和5年(2023年)4月	
	【配置済みの専門スタッフ】【再掲】 スクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC） 学校問題解決支援員、いじめ対応支援員、教育相談員、いじめ対応専任相談員 スターター、スクールロイヤー、英語指導助手、ICT支援員、読書活動支援者 介助員、発達相談員、学校サポートスタッフ、部活動外部指導者 不登校児童生徒支援員		実施済

## 方向性2 教育条件の整備

柱	施策等	目標（実施済）年
1 安心・安全な学習環境の整備	屋内運動場の空調設備整備	令和7年度(2025年度)
	普通教室の空調設備整備 特別教室の空調設備整備	平成28年度(2016年度) 実施済 令和3年度(2021年度)
	校舎の大規模改造工事 屋内運動場の大規模改造工事	令和7年度(2025年度) 実施中 令和6年度(2024年度)
	トイレの改修工事	令和2年度(2020年度) 一部実施
	校舎の耐震化	平成27年度(2015年度) 実施済
2 学習に必要な設備の整備	I C T環境の整備 1人1台のパソコン・タブレットを整備 双方向通信環境整備 I C Tサポーター配置 オンライン授業関連物品整備	令和3年(2021年)1月 実施済 令和3年(2021年)1月 令和3年(2021年)6月 令和4年(2022年)3月
	中学校給食全員喫食化	令和8年度(2026年度)
3 児童生徒の平等な教育機会	学校規模適正化	令和6年(2024年)4月～

### 今後検討していく事項

- スクールソーシャルワーカー（S S W）、スクールカウンセラー（S C）の拡充
- 通級指導教室拡充
- 教職員のさらなる働き方改革、働く環境の改善